富に関する教え③

ルカの福音書16章14-18節

2013,7,7 HKJCF

概観

序）金を好むパリサイ人：傲慢・自己中心

1、自己義認 14-15

2、律法・預言・福音 16

3、律法とキリスト 17-18

4、適用

あなたが神様に祈り前進を求める愛の関係にはどんなものがありますか？

Ⅰ自己義認（1）

自己義認：自己の義の証明のために

①律法を自己中心に解釈して自己義認の手段とする

1）律法の引き下げ：神を侮る

2）2重基準：人を裁くが自分は特別・例外

3）本心は：自分・金・快楽 マタイ7：5

⇒神は高ぶるものを退け Ⅱテモテ3：2

ヤコブ4：6

自己義認（2）

②富を自己義認の証拠とする

1）神様は信仰者を物質的にも祝福する

2）豊かな自分は神様から義とされている

3）貧乏人はそれだけの理由がある

⇒自己義認（偽善・傲慢・自己中心）⇒聖書解釈（ヨハネ9：1-3）も自己を例外

⇒自己義認の罪（無意識・悪質・鈍感）⇔聖書のことばと現実に誠実に直面する

Ⅱ律法・預言・福音

1、主の宣教の中心は神の国の到来

2、人々は神の国の福音（父なる神の愛に）殺到している

3、しかし、律法は一点一画もおろそかにされるべきではない（主人の厳しさと管理人の変化 参 ルカ16：1-4）

⇒①養育係としての律法：自己義認から十字架（神の義と愛）の救いの必要性の自覚：聖書の本質（神のみ心）の理解・現実への直面②地上の国から神の国へ（神の義と愛の原理）

Ⅲ律法とキリスト

1、律法を本質（神のみ心）から解釈する

2、律法と現実の前に謙る（参 放蕩息子）

3、律法を通しキリストに導かれる

4、律法が主により成就されたことを知る

5、聖霊により神の国（父なる神のみ心）中心に、地上の生活を生きる（弟子の道：マタイ5-7章 ルカ16：8,11,13 ロ-マ10：13）

⇒①十字架の愛による律法の成就 ②聖霊の満たし ③愛を中心とする地上の生活